

北九州市発達障害者支援アセスメントツール研究会の開催について

1 趣 旨

発達障害のある人が「生きづらさ」を、また、その保護者が「育てにくさ」をそれぞれ感じることなく、安心して日常生活や社会生活を営むことができるようにするためには、当事者・家族・支援者がその人の発達特性を正しく理解し、必要な情報を共有しながら、乳幼児期から成人後までのライフステージを通じた切れ目のない支援を進める必要がある。

こうした考えのもと、北九州市では総合療育センター、発達障害者支援センターつばさ、特別支援教育相談センターをはじめ、子育て、療育、教育、就労、生活支援など、当事者と家族を支える社会基盤の充実に努めるとともに、当事者団体との協働により「自閉症啓発デー記念行事（毎年度4月）」を開催するなど、市民啓発に努めてきた。

このように、発達障害児者を支える制度や施設、サービスなどについては計画的に整備を進めているところであるが、一方で、当事者一人ひとりの特性理解については統一された仕組みがなく、多くの家庭や支援の現場においては、その人の特性理解に悩みながら、各々が手探りで支援を行っている現状がある。

このことから、発達障害児者の支援に関わる人が、共通の仕組みのもとで一人ひとりの特性や生活場面での困難を正しく理解し、当事者・家族・多職種の協働によるチーム支援の推進を図るため、幅広い関係者の参画のもと、北九州市アセスメントツール研究会を開催する。

2 目 標

- ・ 発達障害の特性評価に係る「共通の仕組み」の確立

発達障害児者の支援においては、その人が暮らし、学び、働き、活動するすべての場において、その人の認知・感覚の特性等に応じた関わり方や環境を整えることが大変重要である。

こうした考えのもと、発達障害児者の支援に携わる市内の関係者・関係機関等が、共通のアセスメントツールを用いて基本特性の評価を行い、その結果を多職種の支援者が共有することで支援の質の向上を図り、次のライフステージへ円滑に引き継がれる仕組みを構築するため、アセスメントツールの研究を広く行う。

3 会の位置付け

北九州市が主催する会合

4 実施体制

別紙要綱のとおり

なお、当研究会は北九州市と北九州市医師会の協働事業と位置づけ、市は企画段階から北九州市医師会「発達障害支援連絡会」の意見を聞きながら検討を進める。

5 活動期間

平成30（2018）年10月から。

なお、当研究会は平成30年度中を目処に「（仮称）北九州市発達障害者支援地域協議会」に統合し、引き続き活動する。

6 主な活動内容（平成30年度）

（1）第1回（平成30年10月18日・木）

- ・ 市内の現状について（市からの説明）
- ・ 当面の研究対象とするアセスメントツールの選定
- ・ 関係者アンケートの実施について（アセスメントツール活用状況）
- ・ 北九州市医師会主催 Web講演会について（関連事業）

（2）第2回（平成30年12月）

- ・ 関係者アンケートの結果報告
- ・ 事例検討会の進め方について、今後の取り組み方針について

（3）第3回（平成31年 2月）

- ・ 事例検討会（拡大会議）

（4）その他関連事業

- ・ Web講演会（北九州市医師会主催、北九州市共催予定）※ 医療関係者向け
日程等 平成30年11月10日（土）17時～19時 総合保健福祉センター講堂
演 題（仮）「MSPAの概説」
講 師 京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授 船曳 康子 氏（医学博士）